

すまいのまあい

— 家族の生活が流れる住まい —

僕のすまいは家族の生活が流れる。

壁がみんなの生活を囲むんじゃなくて、受け流すように立っている。
僕もママもパパもみんな思い思いの場所で過ごしているけれど、
その生活が壁の間を流れていくんだ。

パパのキーボードをうつ音も、
ママがつくるおいしい夕飯の匂いも、
マドを開いたときに吹き込んでくる風も、
そしてみんなの声も。

なんとなくわかるんだ、誰がどこにいて何をしているのか。

「今日のごはんもおいしいね！」
「さっき聞いてた音楽はなに？」
「宿題はあとでやるんだよう。」
「ぶちそーさまっ」

パパは仕事の続きを、
ママは食器の片付けを、
僕はマンガを読みはじめる。
でもみんなをすぐそばに感じられる。安心できる。

家っていいなあ。

宿題がわからないときはすぐに誰かをよべちゃう。

いってらっしゃい お帰り は忘れない。

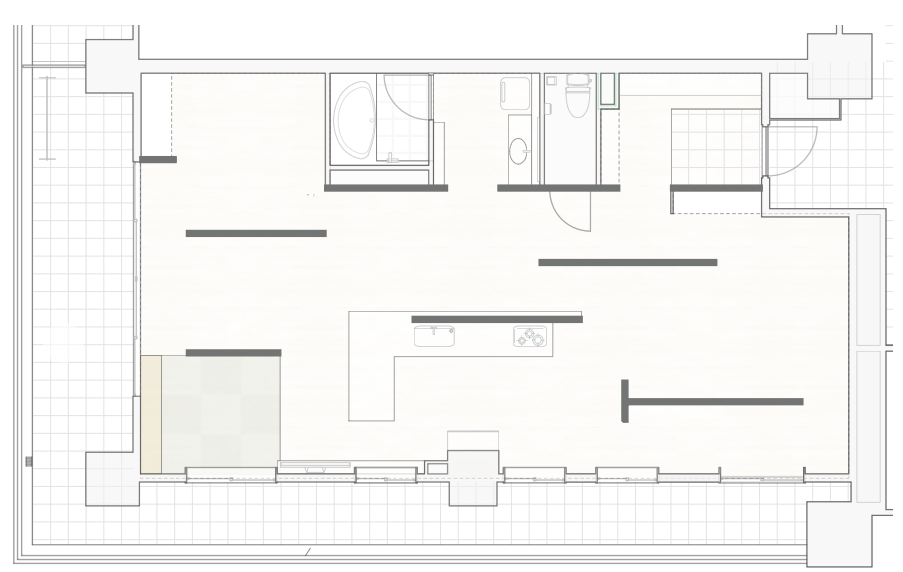
みんなのかおがみえる。

仕事をしながらでも家族を見守っていられる。

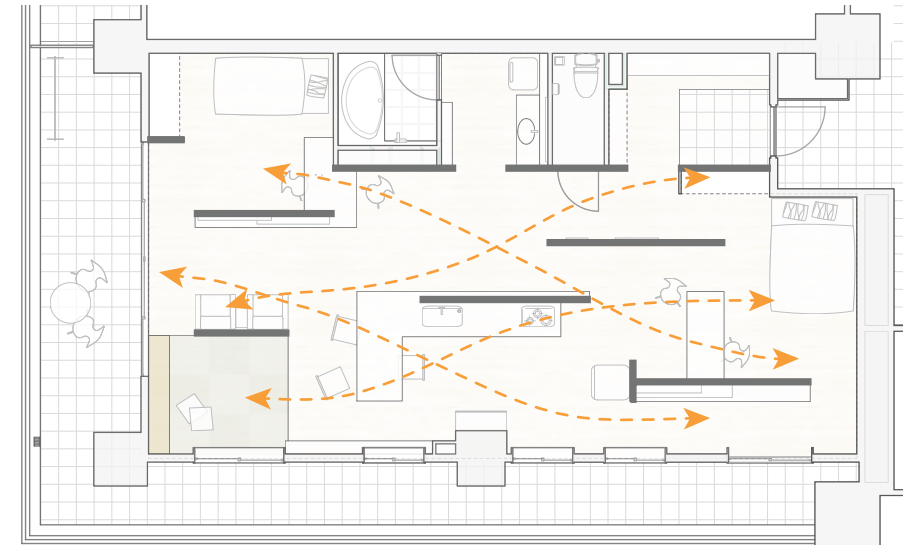
畳にねっころがりながら今日の夕飯をテラリ。

みんなの読書スペースは洗濯干しの作業場にも。

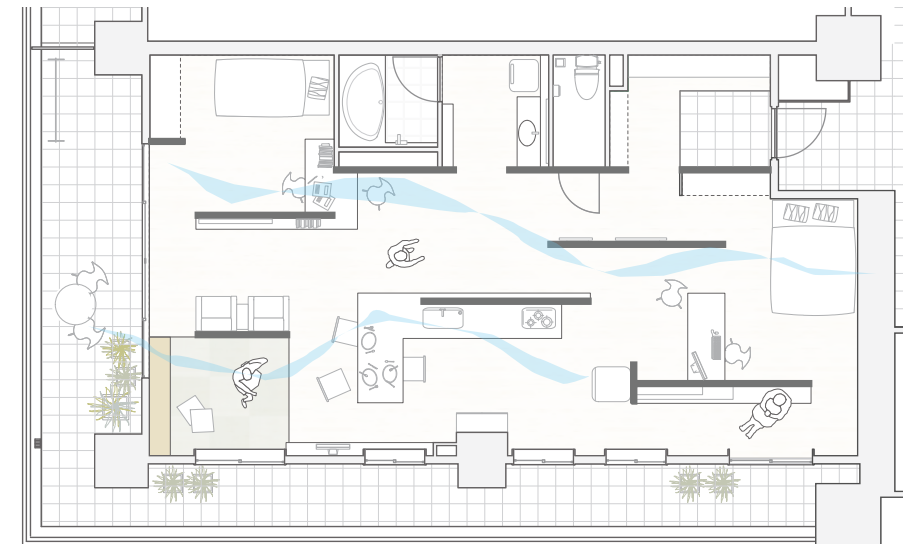
僕の家族の領域はどんどん広がっていく。



家は、部屋は、ハコじゃない。
いきどまりをつくらないように壁をおく。



すると、家族の生活は家の中を流れ始める。
壁の間から溢れ出る領域が混じり合う。



流れるのは家族の生活だけじゃない。風も光も匂いも。
明るくて楽しい、家族みんなと一緒にいられる家。



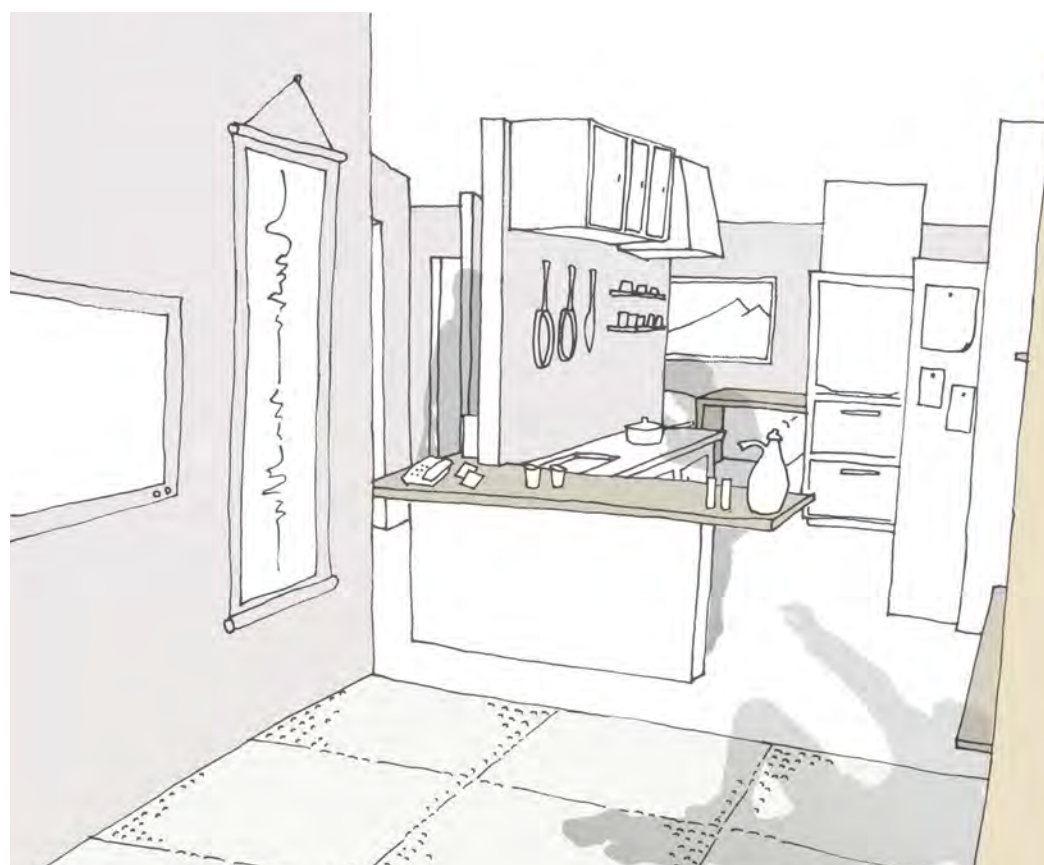
光や風、家族の声が流れていく明るい家。



ぼくは通りかかったママに勉強を教えてもらったり



パパは仕事をしながらママの話にみみを傾ける。



うちのパパはママには逆らえないみたいだ。